



高島炭鉱跡 北溪井坑跡

Takashima Coal Mine Hokkei Pit

高島炭鉱跡北溪井坑跡とは？

たかしまたんこうあとほっけいせいこうあと

■高島炭鉱跡北溪井坑跡

高島炭鉱は、西洋の近代的技術を採用した北溪井坑を始まりとし、端島炭坑に継承・発展されました。石炭鉱業は日本の近代化において大きな役割を果たした産業であり、高島炭鉱跡をたどることで、その開始から発展、終焉までの様子が理解できます。

北溪井坑は、日本で最初に近代的採炭法を導入した炭坑です。蒸気機関による捲揚機やポンプなどの西洋の技術が導入された、深さ43mの^{まきあげき}竪坑をもっています。日産300トンを出炭したといわれます。明治元年（1868）から開削し翌年に着炭しましたが、海水の流入により明治9年（1876）廃坑しました。

竪坑跡は平成17年（2005）に長崎市の史跡に指定されました。近代的な炭鉱技術が導入された、初期の様相を伝える代表的な遺跡です。

※炭鉱…石炭を掘り出す区域（山、海底など）の一まとまり

炭坑…石炭を掘り出すための穴。地上から垂直に掘られた穴は「竪坑」、水平に近い方向へ掘られた穴は「横坑」と呼ばれる

■発掘された北溪井坑跡

北溪井坑跡は竪坑跡が地上に露出していますが、その周囲の遺構については、よくわかっていませんでした。平成16年（2004）はじめて発掘調査が実施され、遺構が残っていることが分かりました。その後、平成21・22、24年度（2009・10、12）にも発掘調査が行われ、とくに竪坑跡の北側を中心に遺構がよく残っており、煙突跡と推定できるレンガ造りの遺構を確認しました。





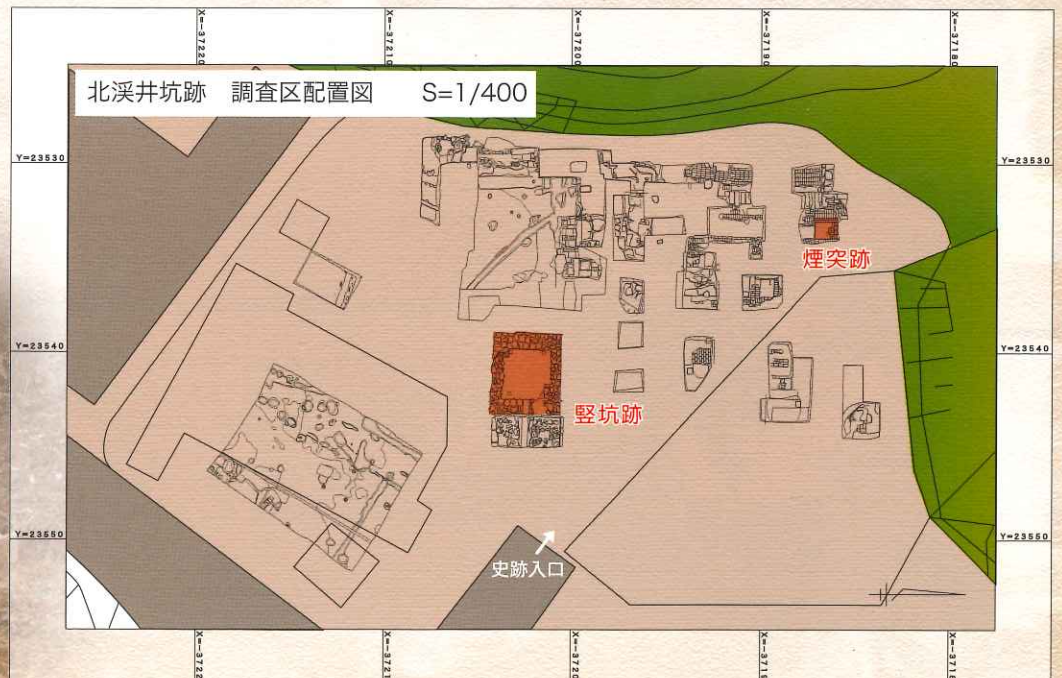
操業時の北溪井坑
日本大学芸術学部所蔵



現代の北溪井坑跡

高島炭鉱跡略年表

元号・西暦	高島炭鉱跡のできごと		
	北溪井坑	中ノ島炭坑	端島炭坑
元禄8年(1695)	高島で石炭発見		
文化7年(1810)			端島で石炭発見
慶応4年(1868)	佐賀藩とグラバー商会の共同出資で開発		
明治2年(1869)	北溪井坑着炭		
明治8年(1875)			端島炭坑着炭、すぐ廃坑
明治9年(1876)	北溪井坑廃坑		
明治13年(1880)		中ノ島炭坑着炭	
明治16年(1883)		出炭開始、翌年三菱社が取得	
明治23年(1890)			三菱社が取得、炭坑整備
明治26年(1893)		中ノ島炭坑廃坑	
明治30年(1897)			端島炭坑の出炭量が高島の炭坑群を抜く
昭和16年(1941)			年間出炭最高記録41万1,100トン
昭和40年(1965)			三ツ瀬区域から出炭開始
昭和49年(1974)			端島炭坑閉山、無人島となる
平成3年(1996)	竪坑跡が日高島町指定有形文化財となる		
平成16年(2004)	北溪井坑跡で初めて発掘調査が行われる		
平成17年(2005)	竪坑跡が長崎市指定史跡となる		
平成21年~24年(2009~2012)	平成21・22・24年度に発掘調査が行われる	平成24年度に発掘調査が行われる	平成21年に見学施設として一部上陸可能となる



発掘された北溪井坑跡



そのほかの「高島炭鉱跡」

■ 端島炭坑跡

明治8年(1875)採炭が始められましたが、当初は台風や出水などによりなかなか軌道に乗りませんでした。その後、三菱社が取得して溜水の排除や施設の改良に着手し、出炭量で高島を抜くほどの優良坑へと成長しました。

海底深くに埋蔵された良質の石炭を採掘するため、段階的に埋立て・拡張され、生産施設が造られ、やがて高い護岸によって囲まれた、洋上に浮かぶ軍艦のような姿が形づくられました。エネルギー政策の転換に伴い昭和49年(1974)に閉山し、無人島となりました。

■ 中ノ島炭坑跡

明治13年(1880)深さ69mの豎坑により着炭し、明治16年(1883)から出炭が開始されました。三菱社による高島炭鉱経営初期においては主要な炭坑の一つでしたが、坑内の出水が激しく明治26年(1893)廃坑しました。

北溪井坑跡までのアクセス



お問い合わせ

長崎市経済局文化観光部文化財課
〒850-0874 長崎市魚の町5-1
TEL:095-829-1193 FAX:095-829-1219